

科目名	欧米経済論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修	■選択
			学部	□必修	□選択
英文表記	Western Economics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	深澤 太郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	主に、米国経済とヨーロッパ経済が国際金融体制にどのように関与しているかを学ぶ。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 欧州・米国経済の概要が、国際金融体制との関連の中で理解できる。 2. 日本経済新聞の国際関係の記事の理解度が、大幅に上昇し周りの人に説明することができる。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。				
授業計画	(ポータルサイトに掲示された資料は、すべて試験の範囲に含まれる)				
第1回	イントロダクション：ウクライナそしてトランプ以降の世界経済の外観 掲示資料				
第2回	米・中・露対立が世界を動かす NATOの説明 掲示資料				
第3回	国際収支 テキスト第1章、掲示資料				
第4回	外国為替相場と国際通貨 テキスト第2章、簡単な金利平価式 掲示資料				
第5回	外国為替相場と国際通貨 テキスト第2章、購買力平価と実質為替レート 掲示資料				
第6回	リーマンショックの本質 独立ではなかった米国住宅ローンの破綻（1） 掲示資料				
第7回	リーマンショックの本質 独立ではなかった米国住宅ローンの破綻（2） 掲示資料				
第8回	中間レポート（テスト形式）（持ちこみ可）				
第9回	中間レポート返却・回答と解説				
第10回	リーマンショック以降の国際金融体制 現在の金融不安 テキスト第5章				
第11回	ユーロ体制の現状とユーロシステム（1） テキスト第6章				
第12回	ユーロ体制の現状とユーロシステム（2） TARGETの欠陥 テキスト第6章、掲示資料				
第13回	イールドスプレッドの存在とその原因 掲示資料				
第14回	欧米の現在のイールドカーブと金融政策 国際金融のトリレンマ テキスト第7章、掲示資料				
第15回	世界の人口問題 掲示資料				
第16回	定期試験（持ち込み不可）、期末レポート（テスト形式）（持ち込み可）				
授業時間外の学習	テキストの該当箇所・掲示資料は事前に通読し、疑問点があれば質問すること（約0.5～1時間）。 確認のための復習をし、疑問点があれば質問すること（0.5～1時間）。				
履修条件 受講のルール	マクロ経済学Ⅰの単位を取得済みか、または今年度に履修すること。 3年次に国際金融論を受講すること（併せて受講すると、国際金融関連の理解が深まります） 教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を掲示しますが、欠席した場合はポータルサイトを確認して下さい。 受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。				
パソコン使用について	受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。 なお、長文の資料等については、正しい理解ためにはプリントアウトが必要な場合があります。そのコストは自己負担となりますが、適宜判断して下さい。				

テキスト	「深く学べる国際金融」奥田宏司・代田純・櫻井公人編 法律文化社
参考文献・資料	金融危機の本質シリーズ1「証券化は、素晴らしい金融技術！」深澤泰郎、 「円安待望論の罠」野口悠紀雄 日本経済新聞社 第7章 国際通貨制度の変遷
成績評価の方法	中間レポート（40%）、定期試験（10%）、期末レポート（40%）、その他（10%） 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	国際経済、国際金融の理解なくしては、ビジネスは遂行できません。就職後にそのことを実感すると思います。 この科目は、「国際金融論」の入門との位置づけもあります。